
翌日、世界の終わり

風野四季

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

翌日、世界の終わり

【Nコード】

N7372A

【作者名】

風野四季

【あらすじ】

世界の終わりの前日、ある場所でのたった二人の物語

オレの生まれた世界が終わる前日。

人々はいつもとなんの変わりばえもしない日常を過ごしていた。

「神は仰せ付けられた。大事に慌てることを愚の骨頂と知れと」

「つまり世界が終わると知っているのに何もしないで死ぬ、と？」

「神の言われたことだ。仕方がなかるう」

「神が？だから仕方ない？」

「そうだ」

「世界が終わるってえのに！自分が死ぬってえのに！それがわかってんのになにもしないで今日を過ごせつてのかよっ！！」

「そうだ。全ては神が仰せ付けられたことだ」

「神ってえのが言ったことがそんなに大切なことなのか？あんたはそれで満足なのか？」

「口を慎めっ！！若造がっ！！まだお前ぐらいの若造にはわからんかもしれんがな。神は我々にとって絶対的な存在だ。そして、今まで我々を守ってきてくださった大切な方だ」

「
…」

「神の教えは絶対だ」

「じゃあ、あんたは神に死ねと言われたら、死ぬのか？」

「ああ。死ぬ。神の仰せ付けられたとあれば喜んで死ぬさ。若造」

「何も残さないで、か？」

「それが神の望みとあらば」

「もう一度問う。妻、子、友人、愛する人達、大切な人達に別れも告げずに、か？」

「なっ
」

「そういうことなんだよ。あんたのいう神が望んでいることは」

「
…」

「じゃあ。オレはヒトを世界を創ったのは神だと認めよう。それでも、そのヒトの生活を築き上げたのも本当に神だと言えるのか？仕事して、遊んで、寝て、大切な人作って」

「それは
」

「言えないだろう。だからだよ。神が世界を創ったんだから壊すのも勝手だよ。仕方がないさ。それは運命だ。諦めよう。」

「……」

「でも、オレ達の生活はオレ達で築き上げたんだ。何故、自分達が作り上げたものまで壊されなければいけない。そんなのは間違ってる」

「うつ…」

「せめて、俺達自身で壊す時間をくれてもいいはずだろうが」

「……」

「違うか？」

「確かに、な。若造、貴様の言う通りかもしれん」

「だったら後悔しないようにどこにでも行ってこいよ」

「しかし私にはここに住み込みでお前を見張ると言う神に決められた義務が」

「あんたの大切な人は誰だ？」

「私には　　娘が一人と孫は双子の女の子が。まあ。こんな仕事してるおかげで、忙しくて実際にはまだ会ったことがない　　しかし、娘が写真を送ってきてくれたんだ。どうだ可愛いだろう？」

「そうだな。可愛い。すぐに飛んで行って抱き締めたいぐらいに、だろう？」

「ああ」

「世界の終わりに『義務』なんて言葉は通用しない。もしあるとすれば 残された時間を精一杯に生きて、自分にできることをする
それが『義務』だ」

「随分自分勝手な『義務』だな」

「世界が終わるつてのに自分勝手もなにもないさ」

「イタタツ。食事を渡すために鍵をあけるところまではよかったのだが、お腹が痛くなってきてしまったようだ。貴様を見張っていないの」

「おい。どこ行くんだよ」

「便所に決まっておろう」

「」

「若造、便所に行く前に聞きたいことがある」

「なんだ」

「貴様は何故ここに入った？」

「生きるための最善の策を実践したからかな」

「フン、そういうと思った」

「なら聞くなよ」

「達者でな。神の御加護があらんことを」

「あんたもな」

オレはその日　世界が終わる前日に暗く冷たい牢獄から脱獄した。

『残された時間を精一杯に生きて自分にできることをする』

翌日、世界は終わった

01（後書き）

会話文の練習による文ですので評価はあまり期待してません

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7372a/>

翌日、世界の終わり

2011年1月20日01時47分発行